

感染症内科

発熱疾患への熱くて丁寧な全身的アプローチ

有吉 紅也 科長 (ありよし こうや)

感染症内科がモットーとする診療は、発熱患者に対して、“一生懸命”、丁寧な全身的アプローチにより、感染症を中心とする原因(特定の病原体同定)を突き止め、適切な抗微生物薬などの根本治療へ導くことです。おかげさまで、大学病院での院内コンサルテーション症例は、年間約600件となりました。



対象疾患

- 敗血症などの重症感染症、非感染症も含む原因不明の発熱疾患(総合診療科と連携して診療しています)
- 膿瘍、脊椎炎、骨髄炎などの長期治療介入の必要な感染症
- 肺炎、尿路感染、皮膚軟部組織感染などのありふれた感染症患者でも、他診療科との総合的な連携治療を必要とする症例
- HIV/AIDS、結核、蚊・ダニ媒介性感染症(マリア Dengue熱、ツツガムシ病、日本紅斑熱、SFTS など)、海外渡航後の体調不良などの特殊な感染症

診療・研究について

ほとんどすべての診療科から感染症疑い症例についてコンサルトいただき、適切な抗微生物薬使用等のお手伝いをさせ



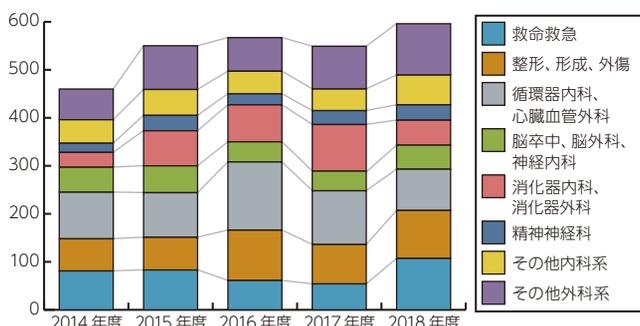
ていただいています。また、感染症が主な病態であれば当科で治療を行っています。また当科の特徴として、週一回の海外渡航外来を開設しており、海外渡航前の健康相談、ワクチン接種(A型肝炎、B型肝炎、ジフテリア・破傷風、麻疹・風疹、狂犬病、流行性髄膜炎菌、日本脳炎、黄熱病)、予防薬処方、英文診断書作成などを行っています。

当科は、熱帯医学研究所(熱研)の唯一の診療部門です。感染症・熱帯医学研究や国境なき医師団などの国際医療活動を志す医師が全国から集まり、アジア、アフリカ、南米の熱帯地へ出かけ、診療・研究・研修に従事しています。なかでも、フィリピン国立感染症病院には、臨床研究拠点を持ち、結核、菌血症、ジフテリア、レプトスピラ症、デング熱などの研究と臨床研修を推進しています。



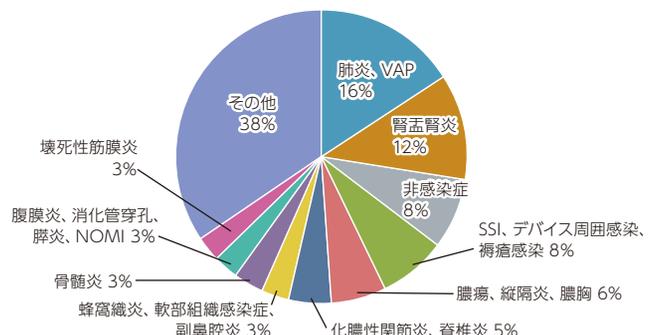
実績データ

他科からの感染症コンサルト件数



多くの診療科から感染症症例についてコンサルトいただいています。感染症がメインの病態であれば当科で治療を行っています。適切な抗微生物薬使用を目指して、各診療科と協力し、幅広い感染症に対応します。

2018年感染症コンサルト(疾患名)



その他：多発外傷、熱傷、溺水、CRBSI、ポート感染、発熱性好中球減少症、敗血症、敗血症性ショック、菌血症、感染性心内膜炎、感染性動脈瘤、髄膜炎、CD腸炎、感染性腸炎など